

はじめに

～春日部市災害対応基本マニュアル策定にあたって～

春日部市自治会連合会では、199の自治会が年間を通し様々な活動をされており、なかでも196の自治会に自主防災組織が組織化され、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことの高い意識を持ち、地域一丸となって日ごろから災害対策活動に、熱心に取り組んでいます。

ここに示すとおり、平成7年1月の阪神・淡路大震災においては、約8割の方々が地域の懸命な「助け合い」により救出され、地域の防災力の高さが生死を分けることが明らかとなりました。

災害対策については、過去の災害における対応に学ぶ姿勢が大切なことで、公助には限界があります。皆さまの生命、財産を守るため、地域で互いに協力し合い、地域の防災力を高めることが重要となります。

そこで、自助・共助の取り組みの大切さをご理解いただき、今後の災害対策活動の一助としてご活用していただくため、マニュアルを作成しました。

春日部市自治会連合会長 時田 美野吉

春日部市長 石川 良三

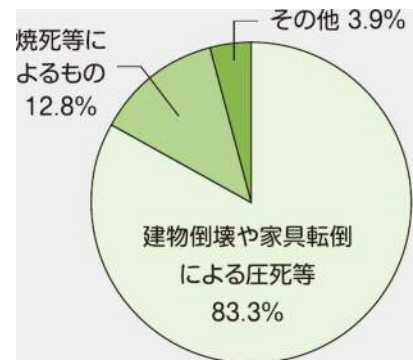
阪神・淡路大震災から学ぶ

●約8割が家具等の下敷きによる圧死で死亡

阪神・淡路大震災では、6,434名もの尊い生命が失われました。

自助
右の表は、兵庫県監察医が行った神戸市内の検死統計です。神戸市内の犠牲者3,651名のうち、少なくとも83%が、窒息死または圧死で亡くなっています。

まずは、自分や家族の命を守るため、家具の転倒防止措置等を行ってください。



「神戸市内における検死総計」
(兵庫県監察医平成7年)より

●約8割の方々が地域の助け合いにより救出

共助
地震発生から3日(72時間)以内に救命された方のうち、約8割の方々は、隣近所の方々により救出されています。地域の防災力の高さによって、生死を分けることとなります。

自分の命は自分で、家族の命は家族で、向こう三軒両隣、地域の皆さんの命は地域で守る心構えが必要です。



★災害対策の基本は、自助、共助、公助のバランスある取り組みが大変重要となります。